



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	芒亭
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Citation	各務時報, 107
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77679
Type	article
File Information	A010_14_Part1.pdf



卷頭言

今年卒業する諸君は昭和十二年に入學したのであつて、其年の四月に入學してから二三ヶ月の中に東亞の歴史を刺する事變が勃發し、其後ずつと緊張し切つた時變下に諸君は諸君の三ヶ年のカレッヂライフを経過して來た譯である。諸君は平時のカレッヂライフに見られる様な色々のなごやかな憶ひ出や奔放な感激の語り草は、餘り経験しなかつたであらうが、諸君は此後の東亞の歴史を色づける興亞の精神をカレッヂライフの最初から訓練されて來た謂はゞ第一回の卒業生である。其意味に於いて諸君が學園を出て今や世に出でんとする事に大きな歴史的意義を見出すのである。興亞の聖業はこれから尙ほ幾年かゝるか分らないけれども一億の民一心に、皆其立場々々に於いて此聖業に従事するのである。興亞の精神を訓練された諸君が、國內國外の戦線に新らたに参加する事は

確かに一つの威力である。

自然の運行は今日此頃陽春の到來を暗示して居る。庭は雪と霜に荒れはてゝは居るけれども、沈丁花の蕾はもう幾分色づいて來て居る。満星天の小枝の先毎には鋒先の様な新芽がはち切れる様な生命力を示して居る。雪にうづもつて居る森林の大きな朽の木の間にも新芽が萌え出て居るであらう。

歴史の永い間、對立や抗争が絶えなかつた東亞の空には興亞の黎明の中に新秩序が展開しやうとして居る。自然は今や春の黎明、東亞は今や新秩序の黎明、而して諸君は早春の陽光を身にあびながら、興亞の鐘を聞きながら、今や實社會に門出し様として居る。正に人生の黎明である。あらゆるものが、今發芽しつつある。野にも山にも私等の學園にも。

(芒亭)

「はつが」 為務時報特別号(第107号)
(山崎隆・又雲部)

昭和十三年(昭和十三年三月)